



今年のみらいフェスタのポスター。デザインも商工会青年部のメンバーが行っている。
(本紙の裏表紙にも掲載しています)

あさの生花店 **染谷 文彰** さん



「自分たちも一緒に楽しくみたい」
明治元年創業の「よしや畳店」で5代目の父・晃さんと畳を作る吉谷和真さん。みらいフェスタではステージイベントの進行管理や会場全体の総括を任されています。一昨年末では2年間、実行委員長も務めました。「みらいフェスタは市内でも一番大きいお祭り。地域の人みんなが楽しめるイベントにしたい」と意気込みます。

創業150年の畳店の6代目として、直接お客さんの要望を聞きながら畳を作っています。「ありがとう」と喜んでもらえる仕事に、やりがいを感じているそう。い草の産地にも年数回訪れ、農家とも交流を深めています。全国的に畳店が減少する中、「畳の良さを伝えたい。地元はもちろん、近隣も含め、畳店として地域を支えていきたいですね」と話します。

よしや畳店 **吉谷 和真** さん



「子どもたちの笑顔に元気をもらえます」

実家の生花店で働く、染谷文彰さん。みらいフェスタでは、SL・子ども広場を担当しています。「子どもたちに楽しんでもらいたい」との思いから、企画を練っているそうです。

普段は店に立ち、切り花の販売や配達、注文を受けた花束やアレンジメントの作製を行っています。「きれい」「かわいい」と喜ばれたときが一番嬉しいと話します。「花をもらおうと誰もが嬉しいですよ。それをお手伝い

できるのがこの仕事です。みらいフェスタでは、子どもたちの笑顔に元気をもらえるといます。事前の準備から会場設営、当日の運営まで大忙しですが「来年も楽しみ」と言葉で疲れも吹き飛ばそうです。商工会青年部の活動で「地域の活性化に貢献したい」と話します。「地域に愛され続ける花屋になりたいですね」と笑顔で話してくれました。

「みらいフェスタを通じて、商工会青年部をもっと知ってもらえたら」

商工会青年部で部長を務める高橋正樹さん。市内筒戸の「企画設計室タカハシ」で、住宅の新築やリフォームを手掛けている。

商工会青年部は、市内で事業を営む若手の事業主の皆さんが、地元を元気にするために集まった組織。みらいフェスタや逃亡中などのイベント開催やボランティア活動を行っています。高橋さんは青年部の活動を「市内で商いをする人同士のヨコのつながりができて、仲間づくりにもなっています」と話します。

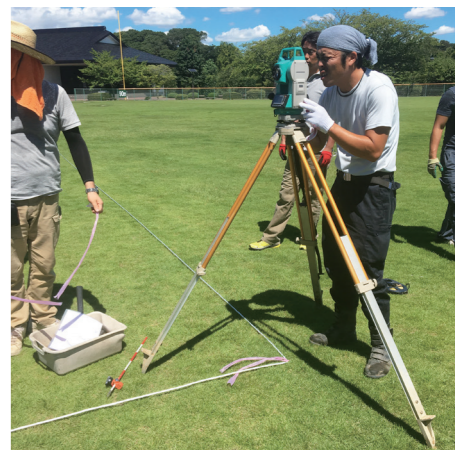


商工会青年部 部長 / 企画設計室タカハシ **高橋 正樹** さん



みらいフェスタのPRも兼ねて、毎年、みらい平駅周辺の美化活動も実施している

みらいフェスタでは実行委員長の佐藤さんのサポートに入る高橋さん。青年部に入った当初は「こんなに大変なのか」との思いもあったそう。ところが、みらいフェスタに来てくれた人の笑顔や喜んでる姿を見ると「やってよかった。もっと良くなってほしい」との思いが強くなったといえます。野球大会など近隣の商工会青年部との交流もあり、「うちの青年部は結束力が強いとよく言われます」と笑顔。



会場の準備やステージの設営など、祭りを構成するほとんどの部分を、青年部メンバー自らが担う。測量や足場建設など専門の技能を持つメンバーが集まる商工会青年部ならではの連携プレーだ。